

# Platform

## 恐怖の とばりが 下りるとき

WHEN THE DARKNESS  
FALLS UPON YOU



虚構の世界には、  
本物の怪異がいる。

station

- VRChat : Midnight Alone  
縋り綱り縋り縋り→縋り蜈蚣・雉械@縋り
- cluster : 縋り綱り縋り縋り、縋り縋り、縋り上k
- Resonite : 旧鐘寝更生病院
- Real.W : 長照山 陽運寺

# Platform Vol.13 contents

Gravure: Anata Hotel	.....	4
Midnight Alone VRChat	.....	12
縋り綱り縋り縋り→縋り蜈蚣・雉城@縋り 縋り綱り縋り縋り、縋り縋り、縋り上k cluster	.....	18
旧鐘寝更生病院 Resonite	.....	24
長照山 陽運寺 Real.W	.....	30
あとがき	.....	36

第13号のテーマは「ホラー」。

世の中には怖いことが沢山ありますが、VRの中で味わう怖さはまさに現実離れした恐怖です。

現実ではせいぜい暗いところを歩くぐらいですが、仮想空間の中では幽霊がでてきたり、床が抜けたり、怪物に追いかけられたり、なんでもありです。

異世界に迷い込んだかのような体験を、是非あなたの後ろにいるお友達と体験してみてください！

え？その部屋には他に誰もいないって？

編集長

← To the next PLATFORM.



世界には、色々な町がある。  
その町ひとつひとつに、駅がある。

どの町も駅もそれぞれ違っていて、  
違った人たちがいて、  
そこを訪れた僕たちが抱く思いも、  
きっと違うのだろう。  
……VRでも、Real Worldでも。

今はまだ離れ離れの「駅」を、「町」を、  
あなたへ繋ぐ線路でありたい。

——それが「Platform」



Welcome to our **H**otel.



...**E**njoy your **STAY**.



Someone,



Somewhere,



Looking at YOU.



What was Left  
Underground...

Welcome back.

ANATA HOTEL



...to HELL.

World: ANATA HOTEL

Created by iron biscuit

# 忘れてしまった

# あの日の “こわい”

こわい、という気持ちはどこからやってくるのだろうか。  
それは未知という暗闇の沼から、  
一人歩くあなたの背中へ、のそりと這い<sup>は</sup>上がってくるものだと、私は思う。

けれど、それは縁もゆかりもない何処<sup>いずこ</sup>から現れるのではない。むしろそのどろりとした底知れない沼は、あなたの日常の隙間にこそ、ばかりと口を開け待っている。

思えば幼い頃には、何もかもが楽しいのと同じくらい、たくさん怖いものがあった気がする。昼間楽しく遊んだ公園が、見慣れた家の廊下が、通い慣れた学校が、ひとたび夜の闇に沈むと、とてつもなく恐ろしい場所に見える。思わず足がすくみ、ありもしない何かを探してしまう。見知ったのと同じ場所であるはずなのに、なんとも不思議ではなからうか。

VR CHAT

『Midnight Alone』というワールドを訪れてみてほしい。  
ぜひ深夜に、あなた一人きりで。

それは何の変哲もない住宅街の一角だ。坂を登る道に沿って並ぶ、少し古びた住宅やアパート。まばらな街灯。ぽつりと立つ自動販売機や電話ボックス。そこには驚かせるギミックも、恐ろしい怪物もありはしない。ただただ、深夜の暗がり沈んだ街並みだ。大人になれば飲み会帰りにでも出会う普通の風景だ。

けれど、子供の頃はどうかだったろう。時間を戻すことは難しいけれど、でも背丈を縮めることはできる。この仮想世界でなら。試しに100センチほどまで縮んでみよう。その時視界に見えるのは、見るもの全てが大きく、新鮮で、そして時に不気味に見える、かつてあなたが5歳の頃に見ていた世界だ。

歩いてみよう。どこにでもあるような夜の街を。そしてきつと、あなたは年を経るに連れ摩滅していった、瑞々しい気持ち思い出す。

いらい、と。

ふと見上げた巨大な自動販売機が、突然唸りだし、びくっと身がすくむ。それが間欠的なコンプレッサーの駆動音と、幼いあなたは知る由もない。通りがかった民家から聞こえた電話のコール音は、夜闇の中から囁く魔物の声のように聞こえる。暗がりに沈んだ街角には、どんな化物がいるかも分からなくて、とても近づくとはいえない。工事中の門の向こうから響いてくるのは、猫の盛り声ではなく、地獄の底から呼ぶ餓鬼の呻きだ。

幻だ、全て。

現実世界でならそう切っ捨てて捨てることもできるだろう。だが、この仮想世界には現にそういうものが本当にある。だから、あなたは捨てきれない。そういう妄想が、不意に形を成し、あなたに襲いかかってくるという恐れ虞れを。

それはあたかも、世界のつまらなさを知ってしまった大人と違い、いまだ世界の未知を信じている子供のようだ。ゆえにあなたは真実、この『Midnight Alone』を歩く時、幼き時分の瑞々し「こわい」を取り戻すことができる。

嗚呼、しかし、本当に取り戻してよかったのだろうか。その「こわい」は。

一度心に巣食った疑心、恐怖は、暗がりの中でふとした瞬間にあなたの肩へ手を掛ける。今、夜道を歩くあなたの背後で、煮詰めたような暗闇がすうっと立ち上がって――。

(文：思惟かね)

Midnight Alone (作：Koyuri)  
ACCESS in VRChat

何か、こつちを見てる。

## このワールドは何？

2020年に制作したホラーワールド。軽量だが、粗雑に置かれたアセットや、目を覆いたくなくほどエラーのメッセージの画像が並んでいる。このワールドは、ユニティでアップロードを繰り返すたびに増えるデータの廃棄物をモチーフ。その恐ろしさは誰も知らないだろう。



## 「廃棄物」の 怨念

ホラーに関する様々な事象は、その時代の人々が抱える不安や社会問題が如実に反映されるらしい。

ゾンビ映画を例にすると、人間がゾン

ビ化する原因は放射線であったり、新種のウイルスだったり、制作当時の人々が恐怖している対象に応じて様々に変化を遂げてきた。現代のゾンビは全力疾走したり、瞬く間に世界中がゾンビパンデミックに見舞われる例も少なくないが、これは情報の早さや拡散という「ネット社会」の負の一面がモチーフになっているらしい。このようにそれぞれの時代に適合した「恐怖」を提供するからこそ、ゾンビ映画はホラーの金字塔になっていると言われる。

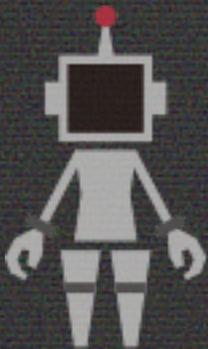
やや古い話だが、インターネットのホ

ラーにおいては「赤い部屋」が有名だろう。突然現れる「あなたは赤い部屋が好きですか」というポップアップ広告を消せば死んでしまう、という話だ。ネット黎明期の象徴とも言えるポップアップ広告だからこそ、当時の人々にはイメージしやすい「ホラー」であったのだろう。かくいいう著者も、2000年代当時は突然出てくるポップアップ広告（赤い部屋ではない）に、未曾有の恐怖を覚えたものだ。「PCが乗っ取られたのか？」「正体不明の何かに監視されているのか？」などと。故に赤い部屋に、妙なりアリティを感じたものだ。



# 奥の方から 何か、こっちを見ている。

ワールドに入って奥の方へ進むと、ロボットのアバターの姿が見えた。顔が黒く塗りつぶされていて、素性が全くわからない。まるで幽霊を見ているような不気味さを感じさせる。



前置きが長くなってしまったが、今回紹介するのはメタバースにとって「身近」で、捻くれた言い方をすれば「メタバースの社会問題」とも（いささか強引にせよ）見做せるホラーワールドだ。ワールド名は「纏ウ纏ウ纏ヲ纏ハシメテ」名前が文字化けしているが、不気味なバグに満ちているワールドだが、作者は「削除済みユーザー」と表記されていて、著者の知る限り素性が明らかではない。

最初の階段を降りると、机や椅子が散乱したオフィスルームに着く。その奥ではロボットが立ち、じっとこちらを見ていることに気が付く。このロボット、clusterにおいて

誰でも使える初期アバターの内の一体である。しかし、廊下の先から眺めてくるそれは、顔が真っ黒に塗りつぶされている。

勇気を出して近づくと……。層気楼であったかのように、身体は床を通り抜けて落下してしまう。その下の階もひどく散らかったオフィスルームで、やはり奥では顔が黒く塗り潰されてしまったロボットが立っている。1体……いや、2体だ。

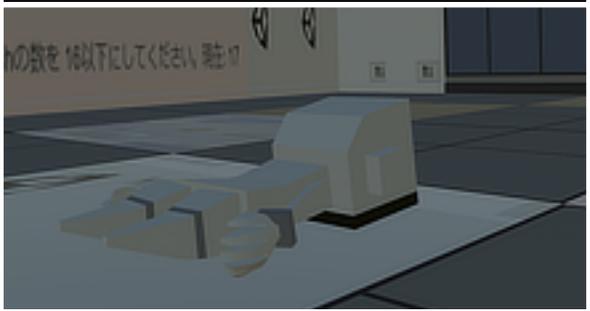
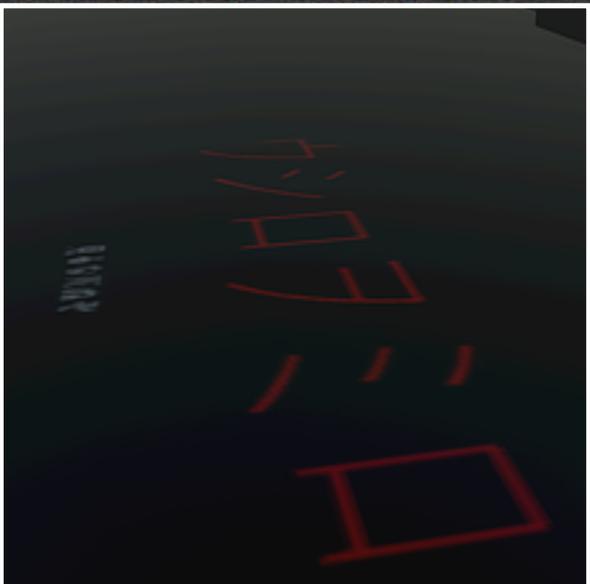
再び近づくと、床があるはずなのに再度床下に落下する。第3階層では、1体のロボットが床に倒れ伏し、奥の廊下では幽霊のように壁をすり抜けるロボットが徘徊している。そして壁には、アバターやワールドの制作に使われる、ゲーム開発プラットフォーム「Unity」などのエラーメッセージなどが描かれている。

成程、このワールドについて分かった気がする。エラーデータ、あるいはバグジョンアップデータに伴って不要となった古いデータなどが、この「墓場」に捨てられているらしい。もしくは、それらが混ざり合い、強い怨念となつて一つの「ワールド」として変化したのだろう。迷い込んだ者が落とされるのは、「ごみ箱に捨てられた」データなどによる復讐なのだろうか。

あのロボットは、自作アバターをさせるようになったユーザーが、「不要物」として捨てられた成れの果てとも解

## アバターからの ダイニングメッセージ

ワールドに「ウシロラミロ」「ココカラデロ」など、恐怖を与えるような赤い字。その中にはロボットのアバターが不自然に倒れたまま動かなくなっている。謎のメッセージは仮想空間の幽霊が発する「何か」だろうか？





# 廃病院の

# 1人探索記録



 resonite

**目** を開けるとそこは真っ暗闇の中、少し遠くを見ると懐中電灯の明かりが見えてくる。どうやら私は宵闇の世界に迷い込んでしまったみたい。

恐る恐る足を運んで懐中電灯を手にとってみる。すると横にインスタントカメラが見えた。手に取り何枚か撮ってみる……ううん、やっぱり持っていくのはやめることにしよう。きつとこういう時に撮った写真って良くないものが映ったりするものだから……。

誰もいないはずの世界でただ一人で暗闇と会話している。とりあえず明かりを確保したから周りを見回してみることにする。どうやらここはどこかの山道みたい。

今にも消えそうな懐中電灯の明かりを頼りに歩いていくと、工事用の柵が置かれたトンネルが見えてくる。どうしようかな？でも他に進む先もないし……。行くしかないよね？私は恐る恐る月明かりの届かないトンネルの中に足を踏み入れていく。

意外にもあっさりとトンネルを抜けてしまった。なんだ、驚かせてもう。なんてことないじゃん！そうと思っていると、目の前に病院と書かれた門が入った。

何この門。かなりやばそうな雰囲気があるんだけど……。門に手を掛けると「ギギッ」。思わず背筋が「ピンッ！」と強張ってしまうような音を立てて開いていく。何とも言えない感覚を味わいながらなんとか病院の鉄の門を開けて行く。

写真／一兎

開けたのはいいけど……今からここを探索するのね……なんだか先が思いやられるなあー。そんなことを思いながら病院に向けて足を運んでいく。それにしても随分と草が生い茂っている場所、人が出入りしなくなっただけから数十年とかがたっているような、そんな雰囲気って感じかな？

なんて考えながら病院の入り口にたどり着いた私は……正直もう帰りたいなんて思っていた。そんなことを考えながら私は木製の扉が奏でる軋む音を聞きながら扉を開いていく。

どうやらここはいわゆる精神病院等に分類される病院らしい。しかもあの、あまりよろしくないタイプのほうの……。

なんでそう思うのかって？だってね、病院の壁に思いつき赤い色のそれが見えちゃってるからね……。帰っていい？ あっだめ？ そう……。しょうがないからもう少し探索することにする。

この病院は平屋の木造になっていて、どうやら別館と渡り廊下でつながっているみたい。まずは診察室と書いてある部

屋に入って……なんでのこぎりドリルがあるのかな？ かな？ してなんであたり一面赤いのかな……。やっぱり帰っていい？？？

ねえいい？ わかってる？ 明かりは手に持っている懐中電灯一つなんだよ？ 全然回りが見えなくて、診察室って何があるのかなって入ったら部屋の真ん中に歯医者さんにあるような椅子があって、その横にテーブルがあってなんだろって覗いたら赤く染まったのこぎりドリルだよ？

もう帰りたいよー……。もうここで部屋の扉が閉まりでもしたらと思うと……。いや辞めておこう。こういうところで変なことを考えるとそれが現実になってしまえばいいから。

そんな感じで見て回った私は、別館の方に行くために渡り廊下に進んだ。渡り廊下もね、雰囲気かもうね。相変わらず懐中電灯しかないし……。

そもそも別館って何があるんだろう？ とそんなことを考えながら進むと別館に

ついていた。

さっき診察室で見た光景より恐ろしいものはない！ と言わんばかりに余裕そうな私の目の前に現れたのは、まるで牢獄だった。

そっか、精神病院と言ったらこんな感じになっちゃうのか……。なんだか心がいれたまれなくなりながら一つ一つその中を見ていく。扉を開けるとそこには一枚の布団とちょっとした机が置かれている。それにしてもどの部屋もそこらじゅうが赤くなっている。なんだかなあ。あの意味冷静になっている私は何とも言えない気持ちになっていた。

一番奥の部屋に行くにつれて部屋や扉が頑丈になっていく。やっぱり暴れちゃう人とか多いのかな？ どうしようもないのかもしれないけどかわいそうだよ。怖いだけではない感情が湧き上がってくるのを感じながら最後の部屋をのぞくと、そこにはかつて自ら命を絶ったと思われる印が残されていた。なんとなくいたたまれなくなり手を合わせていると……。

閉鎖病棟

# 旧鐘寝厚生会病院

救急診療所

保体医務機関

病  
棟

そのうち一人のネームプレートが見えなかったのは……  
きつとバグか何かだよね……??

(文…ことはしろ)

その刹那、建物の外をふと何か  
が横切るのが見えた。えっ?!こ  
の場所にはホラーゲームは存在  
しないはず。なのになんで?少し  
パニックになりながらその正体を  
確かめるべく私は部屋を出て廊下  
から窓越しに草木の生える中を覗  
いた。今度はガサガサと音を立て  
る音が聞こえる。私はパニックに  
なりながら急いで病院の入り口に  
向けて駆け始めた。

こんなの聞いてないよ?!だっ  
てこのワールドは、ホラー要素無  
いですよって説明欄に書いてあっ  
たんだもん。なのになんで?!走  
りながらふと中を見るとそこには  
4mはありそうな蛇が居た。

思わず「わあっ?!」と声を  
出してしまい、その蛇は私にめが  
けて詰めかけてくる。その蛇から  
逃げるように病院の入り口を振り  
返ったその時、目の前に赤い目が  
光る狼がいた、いや正確には人狼  
だ。

私はそこで固まってしまった。  
そうして放心状態で居る私を見  
て。二人が姿を表した。

これは見なくてもわかる。絶対  
に大笑いしているってね。

そう、今私が居るこのワールド  
はパブリック。いわゆる誰でも入  
ることが出来るような設定になっ  
ていたのである。Resoniteのなん  
でもアイテムを召喚できる特徴を  
最大限に生かして私のことを驚か  
していたのである。

もうほんとに心臓が止まるかと  
思ったよ。ドヤ顔の二人を見なが  
らこの人達がお化けじゃなくてほ  
んとに良かったと思ったのだった。

Created by : N.E.T.A.

 ACCESS in Resonite

# 長照山 陽運寺



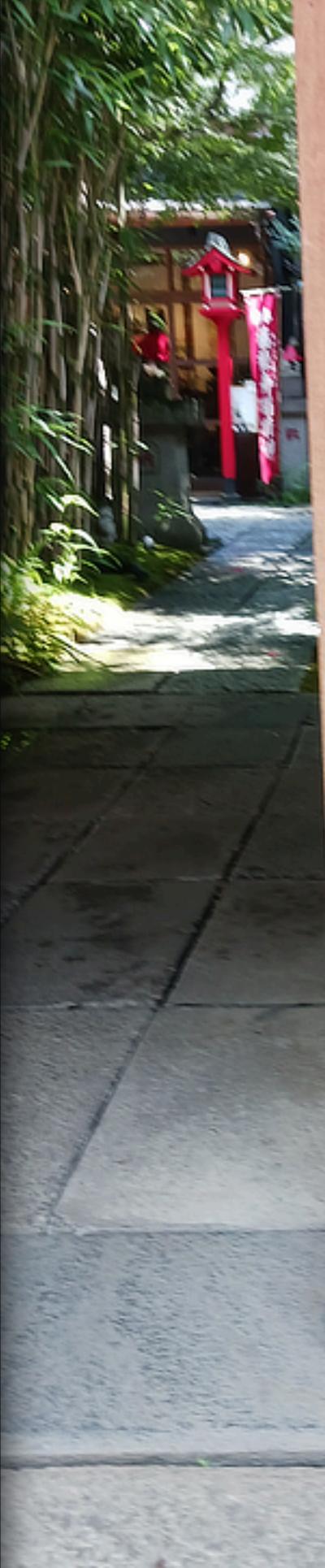
Real World

四谷怪談

お岩さま縁のお寺

長照山

## 陽運寺



## えんが切れた話

江戸時代にあった怪談話「四谷怪談」で有名なお岩様を祀っていることから「於岩稲荷」と呼ばれた。

このお寺では、悪縁を切るご利益があり、全国から多くの参拝者が訪れ、パワースポットとして知られている。

### い

いやあ、今年の夏は暑かったですねえ。7月の時点で40度だなんて、ニュースで聞いた時にはびっくり返るかと思いましたがよホント。けど、なんとか少しずつ空気の気配も変わってきたかなって感じですね。

で、まあ「暑い」っていうと、冷房をガンガンにかけてアイスを食べるのが一番いい対処法なんですけど、まあ違うこともやってみようかって思ってる、昔ながらの対処法、「怪談を聴く」ってのをやってみようかなって思ってたんですね。ベタ？まあね。で、ネットで聞くんじゃないか風情がないなって思って、わざわざ

ぞ新宿の末廣亭、行ってきたんですよ。

で、到着したらですね、まずは自分が名前を聞いたことがある嘶家さんが出てくるかを確認するんですよ。ちょっとしたご縁から知っているのは、えーっと、柳谷はん治さん：三遊亭吉窓さん：柳谷福治さん：ああ、出てなかった。いや、よく考えたらこの方たちは真打だからこういうところではやらないのかな？落語のシステムがよくわからん。まあいいや、出てないなら出てないの楽しみ方と違って取りあえず入りましょう。入場料3000円？こんだけ沢山の出演者がいてそれは逆に安くない？大丈夫？まあ、



財布には嬉しいのでありがたくこの値段で見させていただきませうけどね。入って見たらどうやら本当に怪談話をやるみたいで。

「えー、毎度ありがとうございます。夏といえば怪談ですが、四谷怪談として有名な話を一つ〜」

どうやら怪談で有名なお岩さんの嘶をするらしい。これはいい時期に来たなと思ってる楽しみ聞いてみようかなと。四谷怪談、タイトルは聞くけど実際に嘶を聞いたことはありませんでしたからね。



悪縁を除き良縁を招く

# 於岩稲荷



## 於岩稲荷とは？

現在、四谷左門町には於岩稲荷田宮神社と於岩稲荷陽運寺が道を挟んで両側にある。また中央区新川にも於岩稲荷田宮神社がある。於岩稲荷が複数できた要因は単純に儲かるためであり、お岩の浮気に対して見せた怨念から、男の浮気封じに効くとして古くから信仰を集め、賽銭や土産物で地元経済が潤った。

陽運寺の本堂にはお岩様の木造が安置されており、境内にはお岩様のゆかりの井戸がある。歌舞伎興行の際に安全と成功を願って役者等関係者が必ず参拝に訪れる。

「というお話。おあとがよろしいよう

で」  
いや、面白かったなあ。四谷怪談なのがいいですよ。ほら、最近だと歌にまでなっていて、今更流行り出した「死神」とかの方が出てきそうな感じじゃないですか。でもあえての四谷怪談。流行りに流されない感じがとてもいい。断家さんがそういう考えをしていたかはわからないけど。

それで外に出てきて、チェーンのコーヒー屋で700円ぐらい払ってアイスコーヒーを飲んでふと思いついたんですが、四谷怪談って元々は創作なのに、お岩さんを祀った神社があるんですね。どこにあったかなと色々検索してみると、どうやら四谷三丁目にあるらしいんです。今いる新宿からだだと、20号線を歩くか電車に乗るかで行けるんですよ。意外と近いので、折角だし行ってみましょうかね。まあ、この灼熱地獄の環境で歩く人はいないから、電車に乗っていきましようか。東京メトロ丸ノ内線。あいだは2駅。4分。IC払いで178円。

四谷三丁目について、3分ぐらいかな？

歩く距離だったから、とりあえず自販機でスポドリを買って、灼熱の中歩いてみると到着。なるほどこれがお岩さんの神社ですか。思ったより小さいかな？という感じ。神社の敷地、端から端まで歩いて15歩ぐらいって言えば伝わるでしょうか。大体そんな感じの広さ。そのサイズの中にお参りする所もあるし、手水の所もあるし、小さな稲荷神社もあるし。そして青々と草が生い茂ってるし。密度がすごいね。

そしてここ、どうやら縁切の神様として今は広まっているんだとか。近くの電柱には「縁切りの次は縁結び」とか書いてあるし。面白い着眼点の広告。元は創作物とはいえたられたくないから5円を投げてお参り。でも、縁切りかあ…。別に切りたい縁があるわけでもなし。人の縁にはありがたいことに恵まれてきたし。どうしようかな。

「切りたい縁はございません。せめてたたらないでください」  
なんだかこう、ビビりながらのお参りでした。

この神社のはす向かいには同じくお岩さんを由来とするお寺もあるので一応こ



←陽運寺の境内にカフェも併設されている。参拝のついでに、抹茶やコーヒーで一杯飲んでみてはどうか。

## 長照山 陽運寺

〒160-0017

東京都新宿区左門町18番地

アクセス

JR中央・総武線「信濃町」駅より  
徒歩8分

Web

URL : <https://oiwainari.or.jp/>



ちらもお参り。大きき的にはこっちの方が広いし人がいる。中にカフェ的な所もあるし、水が撒いてあって手入れされている感じ。お寺には5円を入れてお参りとかしなくていいんだっけ？とマナー講師に怒られそうなあやふや知識で一応こちらもお参りしましょう。

さてと、こんなことをやっていたら昼飯の時間を過ぎてそろそろ帰ろうかななんて思ってたんですけど、ちょっと安くならって昼飯を食べながら調べていたら面白いことが書いてありました。お岩さんの話、「四谷怪談」とはいうけれど、モデルになった人は雑司ヶ谷近辺に住んでいたとか。コンプリートしたがりの氣質を持つ私なので、遠くもないしちよっちと行ってみることにしました。とりあえずついでに池袋の本屋も見ながら池袋駅まで。JR埼京線がきたので1駅、ICで167円。

雑司ヶ谷に来たあたりで天気が若干曇りつつあって、ゲリラ豪雨の予感。それに雑司ヶ谷に勢いで来たはいけどゆかりのなにかがあるわけでもなし。どうしよっかな〜と思ったんだけど、そういえば雑司ヶ谷と言えば鬼子母神があるじゃ

ないか、と思い出したので行くことに。本屋から歩いたから裏門から入ることになりましたが。

鬼子母神といえば、人を食べる鬼の女神が自分の子どもをさらわれたことでその罪深さに気が付いて改心した、みたいな話だったはず。この話、意外と怖い話だよなあ。これまで単なる食事だと思っていたことが罪だと気が付くとか。自分がこうなったらもう日常の一挙手一投足にビビっちゃういそう。そんなことを思いながら歩きました。

さてそろそろ帰ろうと思ったら、来た。ポツ、ポツと。雨が。雷が鳴るまでには駅に逃げ込めればいけど。とりあえずコンビニで傘買って駅までダッシュだ！

…あ。

財布に金がない…。

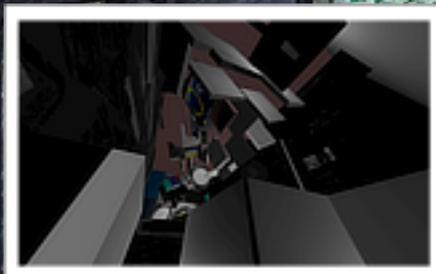
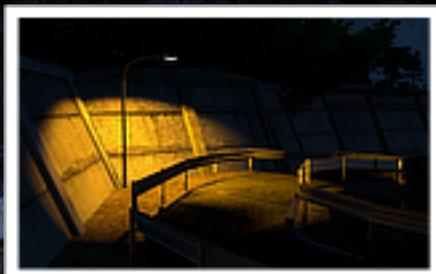
お岩さん、「たたらしないで」っていったことに怒ったのかもしれないけど、このタイミングで「えん」を切らすのは反則だよ！

(文…ニッソ編集長)

# Gravure : Anata Hotel

撮影 : Tokikaze

# station



VR CHAT

## Midnight Alone

執筆 : 思惟かね  
撮影 : 一兔

cluster

纏り縺り纏り纏り→  
纏り蜈蚣・雉械@纏り  
纏り縺り縺り縺り、纏り  
纏り、纏り上k

執筆 : sun  
撮影 : Tokikaze



## 旧鐘寝更生病院

執筆 : ことはしろ  
撮影 : 一兔

## 長照山 陽運寺

執筆&撮影 : ニツソちゃん

感想などは  
#Platform通信欄

へぜひお寄せください!

 **ニツソちゃん**  
編集長 X

仮想空間の中で味わう恐怖からは、とりあえずHMDを脱げば逃げることができます。怖くなったら一息ついて、違う列車に乗って違う空間に行きましょう。次の停車駅は「kawaii!」。お手持ちの切符を無くさないように。

 **思惟かね**  
編集/デザイン X

オカルトは信じないたちで心霊スポットもへっちゃらですが、VR空間には本当に「いる」ので怖くて怖くてたまりません。取材のワールド巡りが辛いと感じたのは今回が初めてです…。

 **SUN**  
ライター X

職業柄、怪異や人外、異常存在と交流し、時には彼らとYouTubeを観ることもありますが、倫理観が崩壊したシミュレーションゲーム実況を見せて、彼らが困惑している様子しか得られない栄養素があります。

 **燕谷古雅**  
編集/デザイン X

なんでこんなテーマを決めたのか。会議の時、私が「ハロウィーンがあるじゃないか」と言ったかもしれない。

 **わく**  
ライター X

最近、徳島にある日本唯一の犬神憑きを落とす神社・賢見神社に行ってきました。犬神を作る呪術は本当に残忍で怖いから各自調べていただくとして、ホラーファンには憑き物関連も好きな人がいると思うので旅行にオススメです。祖谷温泉などと合わせてぜひ (@・wk・)

 **ことはしろ**  
ライター YouTube X

今回訪れたワールドは真っ暗で探り探り散策しました。内容も当時の出来事に基づいているよ!私は普段メタバースで経験した日常・思いを「ことはしろの手記」として書き残しているよ!

 **Tokikaze**  
カメラマン X

転びそうになった時やスマホを落としそうになった時、些細な恐怖は日常に溢れています。そして危機をギリギリで回避して安堵の笑みを浮かべた時、人間は「恐怖の味」を知るのです。ちなみに今回のテーマは私が推しました←

 **一兔**  
カメラマン X

二週間程悪夢にうなされ、フレンドを巻き込みながら頑張って撮影しました!もうホラワはごめんじゃー!

 **Nag**  
校正 X

「ホラーを(安全な形で)楽しむ」というのはどういう経験なのか、というのはVR以後で変化しているかもしれません。本号がその開拓の一助とならんことを。

STAFF 編集長 | Editor Chief  
ニツソちゃん

誌面デザイン | Design  
思惟かね  
燕谷古雅

校正 | Proofreading  
Nag

執筆 | Writer  
思惟かね  
sun  
ことはしろ  
ニツソちゃん

撮影 | Photographer  
Tokikaze  
一兔  
ニツソちゃん  
わく(裏表紙)

2024. 10. 31

*Our  
Journey  
Continues...*

*Platform*

Vol.13 恐怖のとばりが  
下りるとき